

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 2 月 7 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470700356		
法人名	有限会社 いのくち		
事業所名	グループホームゆかりの里		
所在地	〒729-2312 竹原市福田町堂沖尻 1 3 0 0 - 1 TEL 0 8 4 6 - 2 4 - 1 2 8 7		
自己評価作成日	平成25年1月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470700356-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470700356-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年1月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

長年培ってこられた「生きるための力」が今どの程度なのかを知り、一人ひとりの生活機能を把握して存分に発揮し、自分の意志で行動して達成感や満足感を抱きながら暮らすことを支援しています。特に食事は自分たちが食べたいものを献立に取り入れ、一緒に調理して一緒にテーブルを囲んで楽しく食事をするを大切にしています。  
食事づくりは1日の大切な活動の一つになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

1) 当該事業所は、竹原市南西部の閑静な住宅街にあり、JR大乗駅及び国道185号線に近く家族や友人等の面会・訪問および利用者が日常の散歩外出等に適した地理的環境に恵まれている。  
2) 施設は鉄筋平屋建てで、9個室の他共用の畳敷きコタツ部屋、居間兼食堂など清潔でゆったりとした空間の中で生活が送れるような設計となっており、屋外は小さいながら庭や畑もあって季節感が味わえると共に玄関脇には数台の駐車場もあり自家用車で気楽に訪問できる。  
3) 職員は管理者を中心に明るく誠意を持って利用者の支援にあたり、利用者と共に日常の作業は勿論、特に食事に関しての準備・調理・配膳・片付けなどすべての作業を職員と共に行うなど利用者の自立に配慮した支援に努めており、明るくて生き生きとした利用者の言動に事業所としての介護の成果が見えるような感を受ける。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームゆかりの里の理念を職員全員が理解するためにミーティング、申し送り、関わりの振り返りの時にも理念に必ず戻りホーム独自の研修テキストを確認し合うようにして共有につなげている。いろいろな場所に理念を掲示して日々確認できるようにしている。	事業所としての運営理念を定め、更に具体化した運営方針を示し、職員全員で支援に当たっているが、より実践的につなげるために、月間目標を定めてその達成を確認しつつ意識的な支援に努めている様子が伺える。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	幼稚園、保育園の行事に積極的に参加している。地域のふれあいサロンに毎月全員参加して近隣に住んでいる高齢者と交流している。近隣の方から野菜の差し入れがあり、ホームである行事に招待して日頃のお礼を兼ね交流している。	地元の自治会に加入し、諸行事に積極的に参加する一方、事業所で行う諸行事に地域の人々を招待したり、事業所として地域の認知症相談に応じたりするなど、常に地域の一員として事業所自らが表に立って日常的な交流に努め、利用者が地域の中で暮らしやすいよう支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座の講師として地域住民に正しい認知症の知識と理解の啓発に努めている。認知症家族の相談、高校の授業の非常勤講師等を通して地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	家族、地域、行政等幅広い立場からの参加で、アドバイスを受け日々のサービスに活かしている。	運営推進会議は、行政の担当者・地域住民の代表者・利用者及び家族等の参加を得てグループホームの現状や問題点など運営に関する事項について意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	会議は概ね2ヶ月に1回以上、地域密着型の役割を果たすため、多くの地域の人の支援や協力を得ながら、意見をサービス向上に活かすために開催される。現状は年間3回の開催で、地域の参加者も少なく且つ固定的で、また会議の内容もやや偏っているため、本来の会議の目的に沿うよう、回数・参加者・内容などの改善を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	相談員の訪問があり実情やケアの取組みを見てもらい、利用者の暮らしぶりやニーズを伝え連携を深めている。	市の福祉相談員の訪問の際に、現状を見ていただくと共にいろいろと意見交換を行い交流を深めている一方、管理者が行政の関係者等と個人的に懇意で、常日頃から意思の疎通も円滑で協力関係も特に問題は無い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ゆかりの里の方針で身体拘束はしない。ミーティングや日々の申し送りでの日のケアを振り返り、自覚していない身体拘束が行われていなかったか等確認して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、研修を通して身体拘束の弊害を正しく理解している。</p> <p>・日中玄関の鍵はかけないで出入りが自由になっている。</p>	<p>職員は身体拘束について十分に理解している。事業所としても基本的に安全に気配りしながら自由にすることを方針としており、玄関の施錠は勿論、言動による心理的な拘束についても十分に配慮した支援が行われている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>わずかなことでも現状に問題はないか職員が常に意識している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。</p>	<p>権利擁護を難しく考えるのではなく「日常当たり前に行っている生活」が継続できる支援であると捉えている。外部研修に参加して活用できるように学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は重要事項を丁寧に説明している。特に事業所で出来ること、出来ないことを明確に説明している。事業所のケアの考え方、取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲の説明をして理解納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>行事に家族の参加を呼びかけたり、家族会では自由に話せる雰囲気作りに心がけ出された意見、要望を運営に反映させて役立てています。</p>	<p>家族や知人等の面会・訪問時などを活用して意見や要望を聴取するように気配りしているが、それ以外に機会としては家族会の場を活用してご意見を戴くように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議、日々のミーティングで意見、要望を言える機会がある。日頃コミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり聞き出したりするようにして、アイデアや気づきを運営に反映させている。</p>	<p>基本的には毎月の職員全体会議や日々のミーティングで職員の意見や提案が自由に発言できるように機会がもたれている。勤務時間や業務内容の一部変更など具体的に改善意見が反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>運営者も頻繁にホームに足を運んで利用者と過ごしたり、現場の業務や悩みを把握している。職員の休息は休息室で休み気分転換をしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所内外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。新人職員にはマンツーマンでケア、利用者の関わり方など丁寧に伝えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>研修会で交流がありネットワーク作りが出来ている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>早くなじめるようにコミュニケーションを取りながら関係づくりに努めている。時間をかけてじっくり傾聴し安心するような声かけをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族が求めていることを理解し、事業所としてどのように対応できるか話し合っ て関係づくりにつとめている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる対応をしている。利用開始前に体験して徐々に馴染んでもらうように工夫している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者は人生の先輩であるということを常に頭に置き、利用者さんから教えてもらっているという場面を作るように工夫や声かけに配慮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの生活で培ってきた力を教えてもらい関係を築いている。</li> <li>・利用者と一緒に料理を作っているとき利用者に支えられていると思う。</li> </ul>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員と家族が本人の生活を共に支援している関係を築き、日々の様子、気づきの情報を伝え、家族と同じ思いで支援していることを伝えている。</p> <p>来訪時は本人と家族がゆっくり時間を過ごすことができるように配慮している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>今までの生活の延長線上の生活を続けるように、知人、友人、職場の同僚、同級生と合ったり電話で話したり関係が途切れないように支援している。</p>	<p>利用者本人のこれまでの生活を続けられるよう支援することを方針として、来訪者を大切に、知人、友人、同級生など行き来も自由で食事会などの外出は来訪者にゆだねるなど、自然で豊かな関係の維持継続が出来るよう支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	持っている力や個性を出し合い支え合える場面を食事作りやおやつ準備を一緒にしたり、一緒に食べて一人ひとり孤立しないように支え合える事ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他に入所、入院になっても経過を見守ったり必要に応じてフォローしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	買い物、外出、入浴時間等本人の暮らし方を大事にするように努めている。意思疎通の困難な方は、動作や表情をしっかりと読み取ったり、又は、自分に置き換えて「私だったら」と、真意を推し量っている。	入居時や日々の言動や素振りなどから一人ひとりの希望や意向を把握し、利用者本人の意向や思いを大切にしている。スケジュールの無い本人中心の暮らしや生き方を支援することを方針として、職員全員が理解し実践に努めている様子が伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケアマネジャーに聞いたり、本人から聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活習慣、一日の中でどのような体調の変化があるか把握して出来る力、分かる力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>暮らしの場でのケアは、日替わりで対応が変わっていきます。随時カンファレンスしてその日その日の精神状態に合わせてケアを職員の創意工夫がプランになっています。</p> <p>・個々のケアプランから毎日ケアポイントを決めてその日のケアの目標にして現状に即した介護計画にしていっている。</p>	<p>常に入居者主体の自立支援を重視したケアプラン作成に努めており、利用者本人の、その日その日ごとの状況把握により関係職員の話し合いや、カンファレンスを行い、現状に最適な介護計画の作成・実践に努めている様子が伺える。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>・ケース記録以外に申し送りノート、提案、気づきノート等を利用して情報の共有、介護計画の作成に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者と家族が安心して暮らし続けて行くために、時には病院の通院等の支援をして柔軟に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>社会との関係を大切に、地域行事に参加したり、幼稚園、保育園の行事に参加してふれあい豊かな暮らしを楽しむように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。</p> <p>母体の病院の他に利用前からのかかりつけの病院に受診の時には、母体医院でした検査情報を渡し関係を密にしている。</p>	<p>入居時に家族や本人との話し合いで「かかりつけ医」を確認し、本人が希望する場合はそのまま継続受診していただいている。事業所の母体が医院であり月に2回程度の定期健診による健康状況も把握され、適切な医療支援が受けられるよう日常的に支援されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週1回母体医院から看護師の訪問があり些細なことも相談できる。看護職員を配置しており常に利用者の健康管理や、状態の変化に応じた支援を行えるように支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	母体が医院なので病院関係者との連携は取りやすい。入院によるダメージが大きいので病院関係者と連携を取れる関係作りを行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入所の時終末の考え方を聞いて、看取りに関するアンケートに答えてもらっている。また、高齢になると、重度化した場合にグループホームの指針を説明した文書を渡して事業所でできることを説明しながら共有するように努めている。	入居時に看取りの問題を含め重度化や終末期の考え方などについて本人や家族との話し合いを行っているが、状況の変化によりその都度新たに確認を取るなど慎重に対応している。地域の関係者との協力体制も理解されつつある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	院長先生から職員全員参加で緊急時の対応について慌てずに適切な行動がとれるように勉強している。年2回消防署の協力で応急処置手当の方法救急救命法等の訓練体験をしている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署の協力を経て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。この時近所の方、地区の消防団の参加で訓練をしている。	年間2回の防災訓練時に近所や地区消防団の参加・協力を得て、利用者共に訓練を実施している。地域との協力関係は大声で叫べば近所に声が聞こえることまで確認するなど近隣の協力体制が具体化している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねたりしていないかいつも振り返っている。 ・急がせたりする時感情が知らぬうちに表情ででることがあったりしそうな時言葉を選んで声掛けをするようにしている。	職員教育として礼儀・身だしなみ・言葉遣い・音声・意思の尊重など、利用者の接遇に関して日常的に実践するよう指導しているが、思わず大声を出したり感情が表情に出たりすることがある。特に入浴や排泄支援時に誇りやプライドを傷つけないよう支援に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の進行に伴い、うずもれてしまいがちな本人が決める力やその人の希望や思いが十分に意思表示できなくても、表情や全身の反応を注意深くキャッチしながら本人の希望や好みを把握していつている。些細なことでも本人が（たべたい、たべたくない、～したい、～したくない）等決定する場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、時間を切った過ごし方はしていない。時には、朝寝坊したり、利用者同士や、職員とおしゃべりを楽しんだり、お互いの部屋を訪問し合ったり利用者のペースに沿って見守りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪形やパーマ、髪染め、服装等身だしなみ、おしゃれは個別に支援している。朝の着替えは本人の意向で決めている。見守りや、支援が必要な時には手伝っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事への関心を高めるために献立を一緒に考えたり、調理を一緒にしている。参加できない人も味をきいたり、臭いを感じたりして五感の刺激を大切にしている。盛り付け、片づけ等利用者と一緒に食事を楽しむ支援に力を入れている。特に誕生日には、本人の好きな献立にしている。 食事が楽しみになるよう時には、レストランに行っている。	食事は利用者の好みの献立を取り入れ、ほぼ全員が準備から調理・喫食・後片付けまで自分で出来る役割を分担して楽しく作業に従事しており、その姿は職員と利用者との区別がつかないくらい充実し、楽しそうに見える。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一日の食事量・バランス・水分量の記録をして、利用者一人ひとりが一日の食事量、水分量に達しているか職員全員が意識して関わっている。また、疾病やその時の生活リズムも考慮して一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内の清潔の重要性を職員が理解しているので毎食後口腔ケアを一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援をしている。また、月に1回歯科衛生士の訪問で口腔内の状態を看てもらい、治療が必要な時歯科医院につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	身体機能の向上につながるのでトイレでの排泄、オムツをしない生活を目指している。失禁のある人は下着に尿取りパットを使用して全員トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表を活用してオムツに頼ることなくトイレでの排泄を習慣づけて、排泄の自立に向けた支援を目指している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況を常に把握し食事内容、運動による排便を働きかけている。また、水分量、食材で気を配り便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認している。中のよい人同士で一緒に入ったり、温まると安眠できる人には就寝前に入ってもらい、一人ひとりの習慣に応じた入浴の支援をしている。	基本的には、特に入浴日や時間を決めることなく、利用者本人の希望を尊重した支援に努めている。就寝前に入浴希望にも可能な限り対応するよう、職員の勤務時間等を調整したり、個々の希望に応じる支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の体力や生活習慣を考慮して必要な方には昼寝、休息を取るような環境づくりをして、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人ひとりが服用する薬の内容を理解する事や把握することができるように勉強会の機会をもっている。また、服薬時は必ず本人に手渡し飲み込むまで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事づくりで経験や知恵を発揮できるように潜在している記憶を最大限に呼び起すような場面を作っている。また、地域の行事の参加は楽しくなるように利用者と相談しながら行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出支援は、気分転換、五感の刺激になるので買い物、散歩等戸外に出る機会を作っている。また、歩行困難な方も車いすを利用して戸外に積極的に出かけている。墓参りや懐かしい場所への外出支援を行って本人の意欲や自立を保つことにつなげている。	利用者個人個人の希望や申し出により日常的に買い物や散歩外出に出かけるほか、地域の行事や催しに参加したり、機会を捉えて外出支援に当たっている。また年に数回は弁当持参で遠出したり、初詣・花見・紅葉狩りなど、季節を楽しんだり、ドライブや墓参りなど極力本人の希望に添った支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の力に応じてお金の所持をしてもらい自分で財布から払い社会性の維持につなげている。また、買い物先で一緒に支払う支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族や友人からの手紙や電話があることを歓迎しているので、日常的に利用者の希望で電話や手紙が出せるよう丁寧に支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者と一緒に月ごとにリビングの飾りを工夫して季節感を感じたり、月1回フラワーアレンジメント教室があり個人の部屋に自分で活けた花を飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	<p>共用の空間は、適度な温度、明かりが保たれ異臭も騒音も無く、入居者、職員一同で毎朝室内の掃除が行なわれている。清潔感が保たれているほか、入居者の作品や生け花で飾られ、居心地良く保たれている。何よりも室内に明るい会話と笑い声があふれている様子が、極めて心地よい雰囲気を醸している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>談話室や畳コーナー、フロアーにはソファを置き、玄関先や中庭には椅子を置いて仲良し同士でお茶を飲んだり、話しをしたり利用者同士が思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた家具、椅子、寝具を持参して居心地よく過ごしてもらっている。机、椅子を持ち込み毎日写経を書き利用して居心地よく過ごしている利用者もいます。</p>	<p>事業所の備品としては、空調・整理ダンス・カーテンのみで、ベッド・寝具・椅子・テレビなどの家具や鏡・絵画や写真などの小物は、全て個人の好みの品の持込で利用者の使い慣れたもので飾られている。又生け花教室で自分で生けた作品がそのまま飾られるなど個人の部屋として居心地の良い部屋作りがなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>特に台所は食器類が目につきやすくして「出来ること」「わかること」を活かせるようにして自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームゆかりの里

作成日 平成25年3月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		2か月に一度の「運営推進会議」の開催が義務づけられているが、年6回の開催ができていない。	2か月に1度運営推進会議を開催する。	地域の方々の理解を広げ連帯をとり、より多くの方々に集ってもらい交流の「場」になっている。	2か月ごと
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。